

校長室だより第 18 号（令和 5 年 7 月 20 日）

暑中お見舞い申し上げます。

毎日暑い日なのですが、お日様が陰ったおかげで、水曜日・木曜日と少しだけ暑さも和らいだ感もあります。それにしても、雨が降りませんね。学校の植物たちが、水が欲しいと叫んでいるようです。ところで、梅雨は明けたのでしょうか??? 皆さんも、水分を十分に取り、熱中症に気を付けてください。

さて、夏休みになり、さっそく研修会に参加してきました。ずいぶん年を重ねた私ですが、学ぶことが大好きで、この夏もいくつかの研修会に参加するとともに 20 冊ほど本を読むつもりです。（本を読む時間が普段はあまりとれないので、夏休みに一気に読みます。小説も含みます。）

今回の研修会では、「聞き方」「伝え方」についてたくさんのことを学びました。その中で「聞く」と「聴く」の違いについての話が心に残ったので、記します。

「聞く」と「聴く」はどちらも「きくこと」には変わりはないのですが、国語辞典には次のようにあります。

聞く・・・きこえてくる音をきく。（自然に耳に入ってくる）

聴く・・・身を入れてきく。（積極的に、意識して、きこうとする）

つまり、「校庭から子どもの声が聞こえてくる。」であり、「子どもの悩み事を聴く」となるそうです。

「聴く」という漢字をよく見てみましょう。「耳」「十」「四」「心」に分解できます。「四」を縦にすると「目」になります。そして「十」はたし算の記号である「+」とみると、「聴く」という文字は、「耳」と「目」と「心」を「+（あわせて）きく」、となります。

なるほど。好きな音楽を聴くとき、音だけでなく、歌詞も合わせて聴いています。大切

な人の話を聴くとき、発する声だけでなく、相手を見て、相槌を打ちながら聴いています。
相槌を打てるのは、相手の話に心が反応するからだと思います。

この研修を機に、より子どもたちの声や保護者の思い、そして職員の考えを校長として聴くことができるといいなと思います。